

# 第 4 0 号

出典：病院薬局製剤 第 5 版：止痒ローション  
院内製剤は未承認の製剤であり、多くの大学、病院において調合  
し使用

九州大学 皮膚科

# 病院薬局製剤

第5版

日本病院薬剤師会 編

薬事日報社

**止痒ローション**

G-3-46

|    |             |             |
|----|-------------|-------------|
| 処方 | メントール       | 30g         |
|    | ジブカイン       | 30g         |
|    | 液状フェノール     | 100mL       |
|    | ローション基剤*    | 全量 10,000mL |
|    | *ローション基剤    |             |
|    | サラシミツロウ     | 10g         |
|    | セチルアルコール    | 150g        |
|    | ラウリル硫酸ナトリウム | 25g×2       |
|    | グリセリン       | 250mL×2     |
|    | 精製水         | 全量 10000mL  |

調製法及び機器 ①3000mLのフラスコ2個に精製水を2500mLずつとり、ラウリル硫酸ナトリウムとグリセリンを加え、約70℃に加熱する。②乾燥した5000mLのフラスコにサラシミツロウ、セチルアルコールを入れ、約70℃に加熱する。③②をマグネチックスターラーで攪拌しながら①を加える。このとき最初は極めて徐々に、のちに速度を速めて加えていく。2500mLを加えた後、20Lのポリバケツに移し、残りの2500mLを加える。④ホモミキサーで攪拌しながら精製水4500mLを加えて全量10000mLとし、1時間程度攪拌を続けて製する。

処方薬剤規格 メントール(局方品)、ジブカイン(塩酸ジブカイン(局方品)より自家製)、液状フェノール(局方品)、ローション基剤(自家製剤)

調製法及び機器 ①乳鉢にジブカインをとり、研和する。②メントールを加え、大まかに砕く。③液状フェノールを少しずつ加えて混和し、均一な油状液とする。④予め作りおいたローション基剤をホモミキサーで攪拌しながら、③を少しずつ加えた後、2~3時間、攪拌を続ける。⑤よく揉み洗ったガーゼでろ過して製する。

規格・単位 500mL

容器及び貯法 遮光容器、室温保存

適応 アトピー性皮膚炎や肝疾患などの患者の痒み止め。軀幹などの広い部分に使用しやすい。

用法・用量 1日数回適量を塗布する。

製剤量、製剤頻度 20本/月

施設名 九州大

**脂漏精**

G-3-47

|    |                |          |
|----|----------------|----------|
| 処方 | ヒマシ油           | 10mL     |
|    | コレステロール        | 2.5g     |
|    | サリチル酸          | 2.5g     |
|    | レゾルシノール(レゾルシン) | 10g      |
|    | エタノール          | 全量 500mL |

処方起源 文献応用処方

製剤企画の動機 医師からの要望

処方薬剤規格 ヒマシ油(局方品)、コレステロール(局方品)、サリチル酸(局方品)、レゾルシノール(レゾルシン、試薬)、エタノール(局方品)

調製法及び機器 内容500mLのビーカーにヒマシ油をとり、これにコレステロールを加えて水浴上で加熱して溶かしたのち、直ちにエタノール約300mLを加える。次いでサリチル酸、レゾルシンを溶かしエタノールを加えて全量500mLとし、綿栓ろ過して製する。

規格・単位 500mL/本

容器及び貯法 500mL褐色ポリ容器、冷暗所保存

使用診療科 皮膚科

適応 頭部乾性脂漏

用法・用量 適量を塗布してマッサージする。

使用(有効)期限 6ヵ月

特記事項 コレステロール溶解時、加熱し過ぎると茶色に変色するため注意が必要。

文献 宮崎順一ほか：皮膚外用剤、p.76、南山堂、1966。

製剤量、製剤頻度 30本/年、1回/月

施設名 国立舞鶴

**スクアレン酸アセトン液(2%)**

G-3-48

|    |                |          |
|----|----------------|----------|
| 処方 | スクアレン酸ジブチルエステル | 2mL      |
|    | アセトン           | 全量 100mL |

処方起源 文献応用処方

製剤企画の動機 医師からの要望

処方薬剤規格 スクアレン酸ジブチルエステル(MARSHALLTON社、NC U.S.A.)、アセトン(試薬)

調製法及び機器 スクアレン酸ジブチルエステルを秤取りし、アセトンを加えて全量とする。